

やすらぎ



「歎異抄」(第三十四回)

標 暁 講述

「歎異抄」第十四章

「一念に八十億劫の重罪を滅すと信ずべし」ということ。この条は、十悪五逆の罪人、日ごろ念仏をもうさずして、命終のとき、はじめて善知識のおしえにて、一念もうせば八十億劫のつみを滅し、十念もうせば、八十億劫の重罪を滅して往生すといえり。これは、十悪五逆の軽重をしらせんがために、一念十念といえるか、滅罪の利益なり。いまだわれらが信ずるところにおよばず。そのゆえは、弥陀の光明にてらされまいらするゆえに、一念発起するとき、金剛の信心をたまわりぬれば、すでに定聚のくらいにおさめしめたまいて、命終すれば、もろもろの煩惱悪障を転じて、無生忍をさとらしめたまうなり。

(真宗聖典六三五頁)

第十四章では、お念仏を死ぬまでずっと申して罪滅ぼしをしていかなければならぬのだという受け止め方は間違っている。ここ今日の常識とは違う表現があるため、間違えずによく了解しなければならぬ。その第一は「罪」である。我々が考えると、刑罰を受けるような行為を「罪」と云い、また、一般語で「罪なことをするな」というのは、「人に迷惑を掛けるようなことをするな」というような意味に使われる。そういう「罪」とは違ひ、仏教一般的に云えば、仏の教えに背いて我執と煩惱の生活をしている、自我の囚われの心で煩惱を正当化し、自分を主張しながら暮らしている生活そのものが、「罪」ということである。

この章は『仏説観無量寿経』が背景としてあり、経の教えには表面に説かれていることと内面に釈尊がお示しに

光照寺寺報

発行所
宗教法人光照寺

〒331-0821
さいたま市北区别所町102-2
電話：048-651-2781(代)
FAX：048-651-2753
E-mail
yasuragi@beige.ocn.ne.jp
ホームページ
http://www8.ocn.ne.jp/~koshoji

発行人
池田孝郎

便の教えであり、これを自分の罪滅ぼしの為にお念仏を称えるという具合に理解するのは間違っている。これを云われている。

本願を信じ念仏申すその一念、そのひとつおもしろい起った時に、揺るぎない信心をいただく。我々がもうどこにも迷っていないという確信を得させていただく。その確信をずっと生き貫いて、いよいよ命終わるその時に諸々の煩惱悪障を翻して、信心にかなない形を超えて消滅を離れた真実の道理をさとる。一声、二声のお念仏によって自分の罪を消していくという自力のところでたすかるのではない。

我々は本願を信じお念仏申す時に、如来の回向心によって正定聚の位に住するのである。迷っていない人間にさせていただくのである。

(当寺「法話抜粋要約、文責副住職 釈徹照」次回へ続く)



修正会法話

旅行記

春季彼岸会法要 三月二十日(火)午後三時三十分 厳修

詳細は四頁

詳細は三頁

む げ こう 無 碍 光

一凡夫が仏になる法一

住職 池田 孝郎

よって、根底から揺るがす変更が迫られている。

ニーチェの「神は死んだ」は有名な言葉で、「虚無主義」(ニヒリズム)の暗黒の世界からの脱却の苦悩の智慧を学ばなければならぬと深く思い、又、カミュの「不条理」の一石の投げかけによって、文学界の思索の深まりを思うのです。

ダーウィンの「進化論」は近代の思想のすべてに影響を与えていると思うのです。この「進化論」の「功罪」も相半ばする歴史性を包含しています。白人が最も優性学的に進歩しているとする考え方は人種差別の根拠となつて近代より今日まで支配している現実があります。その証拠として東京大学には近代の日本人の優秀な人々の頭蓋骨が保存されています。それは本

当に日本人(モンゴロイド)は欧米人より劣るのかとする「脳の容積」を比較研究するサンプルなのです。又、「北京原人」の「頭蓋骨」を奪い合つた戦争の産物も、そのことを物語っています。人間の優劣は「脳の容積割合」でしょうか。今日の生物学も他の生物の比較進化に「脳の発達進化」を根拠にしている事実であります。

私はここで思うことは、「自利利他」の関係性です。「共存」「共生」が求められている今日、一切生物

も「共存」「共生」の関係性の中で、「共に生き」「共に生かされてある」ことの認識が重要であると考えます。

では、本当に「自利利他円満」となる法があるのかと問えば、私は、「世間の原理も、出世間の原理も同じ、しかし、現われは違う」と云いたいことです。例えば、「世間は利益を求め、出世間は利益を求め」と表現してみたことです。「字」は同じでも「発音」の仕方の違いだけではなく、「本質」「根本」が違い、「方向」が「真逆」であると云いたいのです。丁度磁石と同じで、S(南)を指すと同時に、N(北)を指すと同じで、世間(娑婆)を指すと同時に出世間(浄土)を指す磁石と同じく、その「方向」は「真逆」であることです。

又、「人間存在」を指し現わすのも磁石の喩えが端的と思います。それは、西田幾多郎博士の「善の研究」の著書のキーワードとしての、「絶対矛盾的自己同一」も、N極をスパッと切つても、瞬時にS極が現われ、S極をスパッと切つても瞬時にN極が現われる不可分の喩えです。善いところ取りは出来ない人間存在の自覚が大切です。

人間の愚かさを知り、すべからく慚愧(さんき)懺悔(ざんげ)すべき時です。

南無阿弥陀仏、合掌。

真の依り処

大切ないのちを本当の意味で輝かせるもの、生き生きとさせるもの、そのはたらきがいのちとして表現されているのでしよう。昨今感謝の気持が浅く薄くなり日々平穩無事に過ごさせて頂いていることを忘れ、もつとあれほしいこれほしいと欲をかきすぎて自分を見失っているのではと思います。人が人を思うこと、人が人を愛することが人間のもっている弱く儂い部分こそが人間である大切なものでしよう。昨年の暮に「字」で表わされた絆ですが、3.11あまりにも悲しすぎる出来事でした。誰もが自分が他人に変わる事の出来ないこの身が泣いています。涙を流し思いを寄せお念佛申すことしかできません。このいたまじさに大切なものを与えられました。皆んなでこの絆についても深く考えてみましょう。

岡田ノリ子

鈴の音

お念仏なしには人生は幻であり、お念仏によって人生のまことが輝く

曾我 量深
(歎異抄聴記)

お彼岸



最近、一年が過ぎ去るのが以前にも増して早く感じられてきました。昨年はどうだったかなと回想すると記憶が薄れているというか、全くというほど消去されてしまっています。過去の写真を見れば思い出されてくるという有り様です。「記憶より記録」と云われたりしますがなるほどと思わされます。

しかし、記録したからといって本当にその出来事を真に受け止めているかといったら別なものであります。

昨年の大きな出来事として、3・11東日本大震災によってもたらした悲しみが記憶と記録がされたことでありますが、日常はあたかもその出来事をかき消すかのよう

に時間が過ぎ去っていくばかりです。

悲劇は誰も望むものではありません。しかし、現実には自分の思いに反することの連続です。「この自分の思い」、「自我を是としている自分を仏教では問題にしています。」かといって、「無我」になれるかと云つたらなれません。煩惱盛んな自分であり、「自分さえよければ」という心が顔を出します。そういう我執から解放される世界を願い、いただいた「いのち」を喜び満足する世界に出遇っていきたいと思います。

春季
彼岸会法要

- ・3月20日(火) 春分の日
- ・午後1時30分
～3時30分まで
(1時受付)

- ・光照寺本堂にて
- ・勤行・法話

※準備の都合上、出席人数をご連絡下さい。
預骨されている方は率先してお参り下さい。
ご参詣をお待ちしております。

彼岸参り

- ・3月17日(土)
～23日(金)の期間
(但し20日は除く)

※ご希望の日にちをお知らせ下さい。時間につきましてはこちらで調整させて頂きます。ご自宅か当寺のいずれかで読経いたします。

ひとくち 歎異抄

羅漢：人間は善悪を明確に分けられるのか。

「善悪のふたつ総じてもって存知せざるなり。」 後序



欠陥人間である自覚と、諸行無常の理を覚知し、ただ念仏のみぞまこと、と慚愧、懺悔が要です。

川越喜多院の五百羅漢



報恩講お斎

浄土を依り処とし、どのような環境境遇に遇っても空しくない人生を歩む願生者の誕生が待たれています。

観仏本願力 遇無空過者
能令速満足 功德大宝海



郵便物発送作業風景

(仏の本願力を観ずるに、遇うて空しく過ぐる者なし。能く速やかに功德の大宝海を満足せしむ。) 亡き人を偲びつつご一緒にお念仏しましょう。

副住職(釈徹照)

光照寺、旅行記

平成二十三年十一月五日～六日

「光照寺旅行 世界遺産 中尊寺と紅葉の平泉・花巻を訪ねて」参加者の方々の感想をお寄せいただきました。皆様にこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

(編集長 副任職)

【旅程表】

一日目

大宮駅→仙台駅→平泉中尊寺
見学(金色堂)→昼食・平泉
芭蕉館(わんこ蕎麦)→毛越
寺・浄土庭園見学→達谷窟毘
沙門堂見学→矢びつ温泉着→
佐々木玄吾先生法話→宿泊

二日目

矢びつ温泉→宮沢賢治記念館
見学→昼食・狛鼻溪(あゆ釜
飯御膳)→狛鼻溪舟下り→仙
台駅→大宮駅



中尊寺金色堂前にて

「震災後の東北を旅して憶うこと」

住職 池田孝郎

十一月五日、一泊二日の日程で
悲しみを胸に、三十三名で平泉を

中心に、東北震災の支援の意味をもつて、参らせて頂きました。思いは重いの

のでありました。が、中尊寺、毛越寺が震災後世界遺産になり復興への後押しになったものと喜び、悲喜の涙をおさえつつ感動の旅となりました。光照寺旅行の記念すべき歴史の一頁となったものと頂いております。

世界遺産の中尊寺をたずねて

坊守 池田邦子

二年越し(?)に念願叶って世界遺産に登録された、中尊寺金色堂、毛越寺等、移動間法会ということで光照寺門徒様達との一泊二日の旅行にお供させて頂きました。

三・一一の東日本大震災における諸々の爪跡、心のケア、国の保障進展のない現実を思うと暗くなってしまうですが、東北復興の一助となる事を願いつつの旅でした。

第一回目の箱根旅行以来で、高校時代の無二の親友の神山澄子さ

中尊寺のご本尊は阿弥陀如来、毛越寺の浄土庭園は浄土をイメージした庭園、誠に藤原氏四代の栄枯盛衰の中

に、平安以降の阿弥陀信仰の願いを感じつつ、貴族の信仰から、民衆、大衆の救いへの阿弥陀信仰へ転回せしめた、法然上人、親鸞聖人のご苦勞も又、偲ばせて頂きました。だれ一人漏らさず救うと誓い賜える、弥陀の「摂取不捨の本願」を憶念し、お念仏申さずには

宮沢賢治の世界、「イーハトーブ」を思い、「雨ニモ負ケズ……」の詩を思い、松尾芭蕉の句、「五月雨の降残してや 光堂」の内に復興を一日でも早くと念じます。

合掌。

んも参加して下さい、修学旅行の様な気分を味わいました。あれから四十年弱、彼女の腕にすがり私の生き杖になってとばかり、一緒に歩いてもらいました。

紅葉のみごとな山道と、目を見はるばかりの浄土空間を表現し、

づかさせて頂いています。

翌日、小雨の宮沢賢治記念館、猊鼻溪舟下りと、今回はゆつたりとした尚且つ充実した旅を満喫出しました。これも副住職と旅行幹事さんの下見をされた成果かと思っています。御苦労様でした。



中尊寺本堂前にて

極楽浄土を願って建立された金色堂、堂内中央では、この度被災された方々に対して一日でも早い復興と心の安寧をお祈り致しましたと同時に、自己の醜さを照らし出され、浄土を願う心を持つ事を思い知らされました。佐々木

先生のお話された「聞法、勤行、念仏」がなかなか身に備わない愚かな自分に気が

又この度は、初参加の御門徒の方多数それぞれ親しくして頂き、今回の旅行が楽しみとなりました。私の拙い替え歌をもつと考えて、皆さんと歌いたいと思いました。有りがとう御座居ました。合掌

旅行記

副住職 池田 孝三郎

今回、幹事長の川澄氏、幹事淡海氏、山田邦興氏と旅行地を中尊寺にしようと決めたあとの世界遺産登録という誠にタイムリーな時期を得ました。下見に行つた際は、被災地陸前高田にも訪れ被災地の凄まじさを目の当たりにし、自然と合掌念仏しました。

今回の旅行は被災地支援ということも合わせ、参加費に義援金を含めました。また、参加できない方々からも義援金を賜り、被災地復興を願つての旅行ができたことがかけがえのないものでありました。

各旅行地で働く方々は元気に満ち溢れており、関東に住む私達はその元気を逆にいただいてきました。

参加者の皆様から充実して楽しかったという喜びの声をたくさん



わんこソバに舌つつみ

いただき貴重な時間を過ごせたことに厚く御礼申し上げます。合掌

中尊寺・平泉・花巻を訪ねて

池田 孝次郎

三才の双子を早朝揺すり起こしぐずる子供に無理やり着替えをさせ、手を引き何とかギリギリ七時二十分集合に間に合い、ほっとしたことを思い出す。団体行動に迷惑をかけないようにと、不安を募らせての参加であつた。

今回訪ねる所は全て初めての場所でもとても楽しみで訪ねる度に新鮮に感じられた。中尊寺参拝、本



毛越寺にて

堂・金色堂共にご本尊は阿弥陀如来。金色堂で眩いばかりの阿弥陀様にまずは参拝。子供達も目を輝かせていた。

参拝後、子供達にねだられるまま「真宗は御守り不要なんだけど」などと思いつつも記念に御守りを購入。毛越寺浄土庭園を散策、狛鼻溪舟下り小雨の中、大自然を堪能、宮沢賢治記念館で賢治ワールドに触れ感動。玄吾先生のご法話あり、宿良し風呂良し食事良し大満足でした。光照寺並びに幹事様に感謝申し上げます。

南無阿弥陀仏

岩手の旅

太田 廣彦

平成二十三年三月十一日の東日本大震災による被災地へ、全国から救援の手がさしのべられ、復旧への気運が高まっていた。

光照寺もその意において秋の旅行を東北地方とし、平泉・花巻の旅を決め、微力ながら東日本復興の一助をになう心意気を示すこととなった。

十一月五日新幹線と貸切バスに乗り継ぎ、光照寺一行は秋の岩手路を北上し平泉へと向った。

世界遺産となったばかりの平泉へ着くと、境内は観光客で溢れていた。国宝金色堂はまれにみる大きな建屋で覆われた中に更に本堂があり、荘厳に輝く佛像が安置されていた。中央に阿弥陀如来、脇侍に観音・勢至の両菩薩、更に六体の佛像が本尊を取り巻いていた。参観者と佛像の距離が少しあるのが幾分残念に思った。

平泉という京の都から遠く隔れた北の地に、藤原清衡たち三代は、いかなる願望と苦節をのりこえ栄華を築いていったのであろうか、暫くおもいをいたした。

浄土庭園毛越寺では広大で静か

な池のほとりに憩い、昼食はめずらしいわんこそばで舌鼓を打った。翌六日バスで花巻へ向い、宮沢賢治記念館に行き少々解しがたい賢治のにおいに触れたところである。午後は日本百景 狛鼻溪のみごとな紅葉とおだやかな流れの中を舟下りで遊んだ岩手の旅でした。

光照寺様及び旅行幹事の皆様お世話になりました。

末筆ながら被災地の一日も早い復旧・復興を祈念いたします。

合掌

東北の旅

岡田 ノリ子

世界遺産中尊寺を訪ねる旅に行つて来ました。十一月五日は天候に恵まれ丁度紅葉にもまにあいましてそれはそれは綺麗で青い空に映え息をのむようでした。金色堂は堂全体を金箔で覆い皆金色の極楽浄土を現世に表してありますので身が吸い込まれる気がいたし、しばらく足が止つて動けなくなりました。

翌日はつめたい雨でしたが宮沢賢治記念会館へ。賢治を偲びました。三才の頃から文教篤信の家庭に生まれ正信偈や白骨の御文を暗

誦、十一才では鉱物や植物採集に熱中、十六才で歎異抄に出あい、その後妙法蓮華經の教えを基に感受性と表現力が豊かな為一生涯人につくす行いをし、詩や童話、教育、農業、科学と多彩な活動を行い惜しくも若き三十七才でこの世を去る。

旅行感想

神山 澄子

親友である坊守さん(邦子さん)にお誘いを受け、旅行好きの私も世界遺産となった平泉・中尊寺金色堂は是非見たいと思い喜んで参



加させていただきました。新幹線に乗り、バスでの観光、車中での替え歌の合唱等、とてもなつかしく楽しいひとときでした。初めて見る金色堂のかがやき、そして紅

タイムリーな旅行計画
川 澄 英 明
今回の光照寺旅行は、東日本大震災を少しでも応援したいという気持ちから、東北への旅を計画し



達谷窟にて

葉の美しさ、毛越寺での庭園散策等、すべてが感激でした。二四杯食した「わんこそば」も美味しかったです。宮沢賢治記念館ではいろいろの分野に幅広く才能を持った人だった事を勉強しました。光照寺さんのアウトホームな方々に接し、また、邦子さんの成長されたお子様方を見て友達としてとても嬉しく思いました。幹事さんのお力でスケジュール通りの行程で楽しい旅をさせていただき有難うございました。

ました。

ご住職のご好意で幹事一同事前の下見を慣行、お陰さまで私達の自由なプランをまとめることが出来ました。

大宮から仙台までの新幹線の切符は旅行会社にお願いましたが、東北でのスケジュールはじめ、観光バス、宿泊先、観光先、昼食場所まで、すべて自分たちで手配しました。

下見が終わって、詳しいプランをまとめ、宿泊先や岩手県交通などと連絡をとっていた段階で、訪問先である中尊寺と毛越寺が「世界遺産」に登録されたというビッグニュースが飛び込んできました。旅行後、参加された皆さんから、とても楽しい旅行だったとお声を聞き、幹事としてホッとするとともに、大変嬉しく思いました。

幹事として一緒に力添えいただいた副住職、淡海さん、山田さんに心からお礼申し上げます。

暮れの「ゆく年来る年」の最初に映し出されたのが中尊寺本堂と金色堂でした。旅行先の選択は大正解だったということでしょうか。



中尊寺金色堂と平泉の墓

北 川 美智雄

私にとって光照寺さんは自称お手次のお寺と決めさせて頂きお寺の行事には阿弥陀様と対面合掌念佛出来る事を一番の目標にさせていたいております。このたび一泊二日の光照寺の旅行に参加出来た事は私的に夫婦で個人的旅行を入れると三度目になりました。今回は特に新しい方が多く過去一番の参加数と聞きました。光照寺旅行と云えばプロ観光業者顔負けのスケジュールなのです。来年度も発展継続も参加者全員賛同されました。私は三度も訪ねる事は阿弥陀様の力添えに他なりません。合



旅行幹事長の川澄氏

掌し事前に金色堂にまつわる墓の話を少し調べたメモを照会し旅行の感想に代えさせてもらいます。

〆中尊寺は天台宗の東北大本山です。(八五〇年高僧慈覚大師円仁によって開かれる) 金色堂(阿弥陀堂)は、おおい堂で保護され中に入ると金色の装飾に驚かされるとともに目を奪われる。1124年に造立で、ご本尊阿弥陀如来、その前に観音、勢至菩薩等が中央の須弥壇の中に藤原清衡公の首級が納められている。金色堂のそばには「五月雨の降り残してや光堂」という松尾芭



蕉の句碑が立っている。中尊寺の参道月見坂の入り口にある木の下に武蔵坊弁慶の墓がある。そして毛越寺のそばの千手堂の脇に源義経の妻子の墓がある。源頼朝の威圧によって藤原泰衡が高館の源義経公を襲った。時は平安時代の1189年4月30日31才で最期を遂げられた。このお墓は悲しくも露と消えた妻子の墓と伝えられているが元は、千手院境内であったのをここに墓石を移して供養を怠らない。と説明されている。

今回すばらしく順調に旅のスケジュールがこなされました事は、幹事様初め参加者一同の協力がありますが、第一に阿弥陀様のご慈悲で、いつも私達を見守っていて下さると信じています。 合掌

平泉・中尊寺の旅

草 島 久 子

中尊寺が世界遺産に登録されましたことを知り、是非行つて見たいと思っていましたところ、当寺からの旅行案内をいただき、すぐ参加させていただきたく申し込みました。私は丁度歴史・地理を学習する時期に戦争・敗戦となり、教科書は、ある行は墨塗りされた

り、学校制度が六・三制になったり、教科書は先生方のガリバン刷りでしたので地理・歴史を勉強せずに高校へ。そしてそこで世界史を学び、日本史をあまり学ばずじまいでした。したがって国宝文化財等に興味をもたないまま来てしまいました。ところが今回世界遺産に認定されたと言った中尊寺金色堂是非訪ねて見たいと思いました。事前にくわしい資料をいただき長い歴史を頭に入れ、拝観した金色堂、当時は、まばゆいばかりの仏像であったことと千数百年の昔から守りつづけて来た努力に息をするのも忘れる様に呆然とたたずんでしまいました。この堂の中に清衡公、他、三公の遺体が納められているとのこと。物語ではなく事実なのだと、紅葉の坂道を下り中尊寺をあとにすばらしく心おどる一時でした。

毛越寺の庭園の美しさ、達谷窟毘沙門堂、岩肌へばりつく様に建てられた堂、人間の力つてすごいと思われました。

二日目の宮沢賢治記念館でセロを見た時、主人が岩手大学(前盛岡高専)時代に、マンドリンクラブであちこちの放送局に出ていたとの話を思い出しました。

最後になりましたが、幹事さん方種々心づかい本当にありがとうございます。大変すばらしい旅になった事感謝致します。

宿での法話

「仏法を主とし、世間を客人とせよ」

佐々木 玄 吾

この言葉は『蓮如上人御一代記聞書』にある。仏法を主とするとは、聞法し、勤行し、念仏する生活を継続することであろう。世間を客人とするとは、世間の中で、自分に与えられた仕事に精を出す



佐々木先生ご法話



の役割を果たすことである。

仏法を主とし世間を客人とせよ、これは難しい。しかし、もしこのことが出来たならば、これにすぎる喜びはないと思う。そのカギは頭を下げることにあると思う。「頭を下げて念仏申せ」とは師言である。

初めての東北の旅

佐々木 文子

世界遺産に登録されたばかりの平泉への旅を計画していただいて有難うございました。

印象に残ったのは中尊寺の金色堂。阿弥陀如来を中心に観音・勢至菩薩他何体もの菩薩像が、そして堂全体が金箔で彩られ、貝細工や彫金で飾られて、まばゆいばかりでした。

それと毛越寺の浄土庭園。紅葉した木々に囲まれた大泉が池、まことに浄土を思わせる美しさです。猊鼻溪舟下り、わんこ蕎麦、宮沢賢治記念館等々、初めての楽しい旅を有難うございました。

震災の被災状況を目にするにはありませんでしたが、災害義援金を含めていただいてよかったなと思っています。

南無阿弥陀仏

錦秋に染まる東北旅行

淡海 雅子

世界遺産平泉・花巻を訪ねる旅は東北大震災の支援という課題を含んでいた。三月十一日の未曾有の大震災の記憶は消えることなく心に刻まれている。折しも光照寺の旅行にこの地を選んだことは三月に「被害者支援のつどい」として上山したことに重なり深い意味を感じていた。

平泉では藤原三代にわたり花開いた仏教文化の粋の高さに感服し、また宮澤賢治記念館では賢治の信仰遍歴に関心を持って見学した。父親が浄土真宗の篤信家であり、梶島敏先生との写真は興味深かった。賢治が法華経に浸潤していく中で、父親が真宗門徒としての道理を貫かれたと伺い、念仏者の姿に感じ入った。

佐々木玄吾先生から「仏法を主とし世間を客人とせよ」と題してご法話を頂いた。宗教は個人の信条であるが、それが家族の信仰となっていくことが理想である。しかし、私のいたっている世界を相続してもらうことは容易ではないと思うと同時に私自身が仏法を主として生活しているのか問われ

るご法話であった。

充実した旅であり、旅行のお手伝いができたこと嬉しく思いました。感謝申し上げます。 合掌

東北平泉の旅に参加して

藤原 自雄

御縁あって昨年から護持会に参加し、今回初めて光照寺の旅行に参加させていただきました。私にとつて平泉や花巻は以前から心ひかれる土地でありましたが、旅行をする機会に恵まれましたが、旅行で念願がかなって嬉しく思っ





ております。

最初にお参りした中尊寺では、紅葉が深紅に色づき晩秋の日差しを浴びて光輝いておりました。国宝の金色堂で阿弥陀如来に手を合わせ、みごとな荘厳にしばし見入り、平穏な日々ばかりでなく、戦乱などの困難な時代も経て、よくぞこのような状態で残されたものだ、千年近くの長きにわたって金色堂と関わった多くの古人にあらためて思いを馳せました。

中尊寺の次にお参りした毛越寺では浄土庭園を見学しました。創建当時の伽藍は焼失しておりますが、多くの遺構が保存され、往時の壮大な伽藍を偲ぶことができま

した。

平安末期に戦乱や社会不安に翻弄されつつも、安らぎを阿弥陀浄土に求め続けた多くの人々の思い、願いを、当時は辺境の地といわれた奥州に花開いた『奥州藤原文化』のこれらの遺産に垣間見たような気がします。

宮沢賢治記念館で賢治を再認識し、早速、賢治の本を買いました。40年以上読むことのなかった彼の作品ですが、以前とは違った表情で私に語りかけてきます。これも今回の旅行あつてのことだと思えます。

旅行では本当に楽しい、充実した時間を過ごさせていただきました。特に同朋の方々との旅行は初めてなので、そういった意味でも良い経験をさせていただいたと思っております。

最後になりましたが、旅行幹事の皆様をはじめ、共に旅行をさせていただいた皆様には色々とお世話になりました。感謝申し上げます。

平泉を訪ねて

平山 正三
今年の旅行は、三月十一日の大

地震に見舞われ、かつ世界文化遺産に登録されたばかりの平泉である。この地は私にとっては三十六年前亡き妻と新婚旅行で訪れた思い出の地でもある。

以前訪れた時は、唯の観光名所であり、九月で紅葉にも早く観光客はまばらであったが、今回訪れた時は世界文化遺産で紅葉の見ごろの時期ということもあり、たくさんさんの観光客で賑わっており驚いた。奥州藤原氏の葬堂として平安時代の漆工芸、金属工芸、仏教彫刻の粋を集めて造られた中尊寺金色堂。また、毛越寺の「浄土を地上に表現した」といわれる大泉が池を中心とした浄土庭園、八百有余年を経た現在も周囲の樹木と相まって、なお変わらぬ美しさを見せている庭園。これらを見て藤原氏の栄華を垣間見ることができた。他に達谷の窟、宮沢賢治記念館、猊鼻溪を訪れる。

妻の写真を懐にし、楽しい旅行が出来たこと、さぞ浄土の妻も喜んでくれたと思う。

秋の東北を旅して

三輪 民子
平泉中尊寺、毛越寺浄土庭園、

世界遺産の日ざしの中で見る紅葉は、まだまだ紅く、ゆく秋を惜しむように、落ち着いたたたずまいで、訪ねた私達を迎えてくれました。

昭和三十一年秋に高校の修学旅行で見た、「五月雨の降残してや光堂」と芭蕉がよんだ金色堂の内陣は、昭和三十七年破損が著しくなつて、初の解体作業が行なわれ建物全てを解体し内陣部材を東京に移送し六年間におよぶ緻密な作業の積み重ねにより創建当初の輝きを取り戻し、この時防災、防湿に万全を期して新覆堂が建設され四十年以上過ぎた今も本当に光輝いて夢のようでした。第二次大戦後国宝建造物第一号に指定され、七十五年過ぎて創建当初の輝きを取り戻すことが出来た国です。震災の復帰も出来るにちがいません。急に希望がわいて来ましたが。二日間の旅行はどこに行ってもゆつくりゆとりがあり、良い思い出が沢山出来ました。

光照寺の旅行は、お寺の旅行にふさわしい学ぶことの多い有意義で楽しい旅行だと思っています。これからもどうぞよろしく、ありがとうございました。

南無阿弥陀仏

お知らせ

寺務所より

敬吊

●小島芳行様(護持会庶務)、平成二四年一月十六日命終 八四歳)が浄土へ還帰されました。生前のご功勞を偲び、念仏合掌して哀悼の意を表します。

◆法要のご案内

●春季彼岸会法要

三月二十日(火)、午後一時三十分より厳修。

●光照寺護持会

会員の方は護持会費の納入をお願い致します。又、随時新会員受付中。別紙案内をご覧ください。総会は六月二十三日。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会

毎月開催。午後一時半～四時半まで。講師は樫嶋先生。和讃を学んでいます。日程は寺にお尋ね下さい。

●大經の会

二月五日、三月十一日、四月九日、五月二十一日、午前十時～午後三時まで。細川巖著正信偈讃仰(四)を学んでいます。お弁当持参して

下さい。

●我聞の会

二月十六日、三月二十六日、四月十九日、五月七日、午後二時～四時まで。真宗の簡要を学んでいます。

講師は住職。

●微風学舎

毎月開催。午後七時～九時まで。講師は副住職。「顕浄土」の教学を学んでいます。日程は寺にお尋ね下さい。

●さいたま親鸞講座

午後二時～四時。会場は大宮川鍋ビル。二月十一日、四月二十一日、六月十六日。

●真宗に学ぶつどい

二月二十二日、四月二十日。

●お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご利用下さい。

住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。



俳句・川柳



吉澤 光昭

湯豆腐の葉味は一途これとこれ
 一皮をむいて眩しや太き葱
 雪踏みて我も足跡けもの道
 (飯盛山)

西木 順子

上目遣いに鯉寄りきたる冬初め
 林檎一つを一人で食べて朝はじまる
 銀杏散るいよよ鮮やか眠るとき

花岡 要

福引の軽き大きな包かな
 肌着脱ぎ瘦しわが身を嘆きけり
 一枚の枯葉とわれと何異う

河野 日出子

山茶花の咲く頃となり冬立ちぬ
 移ろいは冬への旅か空の青
 寒月のそぞろ歩きに衿を立つ
 綿入れに袖を通して夜寒かな
 露天風呂紅葉一葉 肌に触る
 乳房無き胸いっぱいに寒さかな
 (乳癌摘出)



顕浄土

江部 鳴村(良吉)

住職の悉皆大音お講風

秩父の陽あつめて吊す柿簾
 山巔の陽をこぼさじと冬桜
 夜祭りの秩父大闇動きだす
 冬囲ひしてより魍魎の声をきく
 鉄楔打ちこむ仕事始めかな
 寒九の水のんで賜はる顕浄土

山田 恒

それなりに生き今風の風と遇う
 夢一つ捨てて余生と手をつなぐ

釈 義深

成せば成るヤルヤル権化やり通す
 今の世にマサカの坂があつたのだ
 登れるかアルプス麓たどり着く

短歌(詩)



孫よ

佐藤 セツ子

幼きがリュックにつめて持ち来し
 はヨッシーという犬の縫いぐるみ
 なり

大小のヨッシーこたつに並び寝せ
 孫はにつこり吾にほほえむ

おこたなど知らぬ三人の孫なり
 頭より入ってキヤッキヤと遊ぶ

お手伝いせがむ孫らに大皿の御馳
 走皆で手を添え運ぶ
 じいじいと一緒に寝ると三人の孫
 らの陣取り夜ふけてはげし

河野 日出子

来る年の去く年の瀬に近づきぬ淀
 み無くして堰を越えたりし
 何時の間にパーキンソンとや棲着
 いて我が身勝手に操られおり
 掌の震えにそつと添えた手の温も
 りだけを置いて逝きなむ
 老いてこそ嬉しきは丹精込めし手
 作りの愛し娘からの毛糸帽

赤秀 品枝

わりきれぬ心残して新しき年迎え
 んと念仏となえつつ

篠原 潤子

母転移父入院北の街親の介護で五
 往復する

寝たままで激痛はしる午前四時夫
 デンワする救急車

夫と娘と悪夢の一夜体験しあらた
 めて知る日頃の幸せ

Aさんは患者のキモチよく分る看
 護士さんだ感謝深謝

入院し点滴坐薬よく効いて回復は
 やく四日で退院

梵鐘



花岡 要 画

友人から「人生をリセットする
 ことにしたの」という電話を
 もらった。何事かと思い聞いてみ
 ると大学の栄養教室に通つてダイ
 エットをすることにしたというこ
 とだった。つまり美しく健康に長
 生きをすることに重点を置いて
 生活することが人生のリセットだ
 ということだった。

大震災で私達は自然の前にな
 す術もなく、また、安全という
 神話が崩れ落ちた。思いがけな
 いことが起こりうることも、良い
 と思つたことも縁があれば真
 反対の結果になりえることも身
 をもつて学んだ。変わらないもの
 は我々の手の内にはないというこ
 とだ。本当に変わらないものは
 何であるのか。何が起きても大
 地に立脚していけるものを見出
 すことこそ、この震災を通して
 学んだ人生をリセットする智慧
 ではないだろうか。そういう私自
 身も美しく年を取りたいという
 煩惱を持った身である。

南無阿弥陀仏。

釈尼雅亮